

小中連携・一貫教育に係る取組事例

(1) 横浜市の取組 (施設分離型・学区型) 【西金沢小中学校、霧が丘小中学校】

- 【取組】・小中一貫カリキュラムの作成
- ・既存の中学校区を基本 (142 の中学校区)
 - ・学年のまとまりは各学校が判断
 - ・学校運営協議会の設置
 - ・教育課程の特例の活用も可能 (教育委員会が各学校と調整の上判断)
 - ・教育委員会から非常勤講師を配置
 - ・方面別学校教育事務所から指導主事の支援
- 【成果】 小学生、その保護者の安心感 (中 1 ギャップの解消)
- 不登校児童生徒数が減少
 - 乗り入れ授業による小学生の学習意欲向上
 - 学力、学習意識、生活意識の向上
 - 公立中学校の信頼度向上
 - 中学生の行動に落ち着き
 - 中 3 により上級生、リーダーとしての自覚を持った言動
 - 教員の 9 年間を見通した指導
 - 校長が一人なので、組織意思決定のスピードが速くぶれない。
- 【課題】 乗り入れ授業をする際の時間調整の難しさ
- 校長の業務量の増大
 - 決裁権や地域との関係で、准校長の位置づけが曖昧
 - 施設が分離しているため、校長不在時への不安や不満
 - 小中一体の組織編成や柔軟な人事、校務分掌の一体化が難しい
 - 他の小中一貫教育ブロックへの情報発信が不十分

(2) 川崎市の取組 (施設一体型) 【はるひ野小中学校】

- 【取組】・ 4 - 3 - 2 の区切り
- ・オープンスペースや教科教室などの施設の有効活用
 - ・中教員による小への授業 (英語、図工、音楽、体育、算数等)
 - ・小教員による中への授業 (家庭)
 - ・中の行事に小の参加 (児童・生徒による小中合同実行委員)
 - ・スポーツフェスティバル (運動会・体育祭) の小中合同開催
 - ・アートフェスティバル (学習発表会・文化祭) の小中合同開催
 - ・中の部活動に小 5 , 6 年が参加
- 【成果】 中 1 ギャップの解消
- 中学校の専門性の導入・TT や少人数教育の効果
 - 人との関わり方に自信を持ち、友だちや異学年の仲間に温かく接する
 - 学校生活に前向きな取組
 - 小中の教員の関わり・児童指導と生徒指導の密接な連携
 - 異年齢集団による行事等の実施による特色ある教育課程の創出

児童・生徒の自然な関わり
小学生にとってモデルとなる中学生、中学生にリーダーの自覚
施設の有効利用

積極的なICT活用

教員の授業力向上に向けた取組

【課題】 9年間のつながりの検証

児童・生徒数増加による校舎のキャパシティ・合同行事の限界

小中独自の活動と小中連携の関わり

小6に最高学年としての意識が育たない

小4から小5での生活リズムの変化（ブロック間のつながり）

中1ブロック独自の活動の難しさ

授業力向上の取組（授業の視点の整理）

目指す学校増の継承（教員の異動）

（3）相模原市の取組（施設一体型連携教育）【青野原小学校、青野原中学校】

【取組】・共通日課による授業交流

・教職員の相互協力による授業交流・授業研究

・合同の学校行事・集会等の実施

・児童・生徒指導の連携

・9年間を見通した特別支援教育

・校内組織・校務分掌の連携・検討

・9年間を見通した指導カリキュラム

【成果】 学力の向上

心の成長（児童・生徒の学びの姿勢、落ち着いた生活態度）

子どもから大人へという節目に寄り添い絶えず見守り励ます教師集団

新しい学校文化を創るという意気込み

小中それぞれの文化を尊重しての「連携教育」

【課題】 どこを伸ばすのか、グループ目標の共有化

連携の量ではなく、連携の質の高まり

特別な支援を要する児童・生徒への対応

（4）東京都品川区の取組（施設分離型・施設一体型）

【取組】・区独自の「小中一貫教育要領」

・全学年に「市民科」の新設

・小1から「英語科」を実施

・小5～中3に「選択学習」を新設

・小5から教科担任制を導入

・施設一体型一貫校を6校整備（他の31小、9中は施設分離型）

【成果】 全国学力・学習状況調査で全国平均を上回る

中学校不登校出現率の低下(2.9% 2.6%)

規範意識の上昇

- 【課題】 5年生以上の教科担任制を円滑に進めるための時間割作成
校務分掌等のシステム化
7年生から入学してくる連携校との連絡
(生活指導等の教育活動そのものの在り方についての共通理解)

(5) 東京都三鷹市の取組 (施設分離型)

- 【取組】 ・ 6 - 3 制のもと、既存の学校を存続させた形
・ コミュニティスクールを基盤として、小中一貫カリキュラムの作成
・ すべての教員に小中両方の教員としての「兼務発令」
・ 相互乗り入れ授業を実施

- 【成果】 三鷹市学習到達度調査結果の上昇 (学力の向上)
中学校不登校出現率の低下 (2.6% 1.3%)
自己有用感の向上
基本的な学習ルールの確立 (教員からの肯定的な評価)
地域人材の活用

- 【課題】 小中一貫の良さと発達段階の違いによる指導方法の理解
管理職の意思統一と権限の明確化
小中学園としてのビジョンの明確化
保護者・地域の支援体制の整備

(6) 広島県呉市の取組 (施設分離型・施設一体型)

- 【取組】 ・ 現行制度の範囲内で実施 (分離型 26 中学校区、一体型 2 中学校区)
・ 学区毎に、小中合同授業、小中合同行事、小中合同研修会の実施
・ 4 - 3 - 2 の区切り (中期に重点)
・ 小中一貫カリキュラムの作成

- 【成果】 保護者、教職員に効果の実感
全国学力・学習状況調査で全国平均を上回る
教員の指導方法改善意欲の向上
子どもの自尊感情の向上
学習時間の増加
学習意欲の向上

- 【課題】 施設分離型における乗り入れ授業時の教職員の負担
小中一貫教育に否定的な保護者・地域への啓発

(7) 奈良県奈良市の取組 (施設分離型・施設一体型)

- 【取組】 ・ パイロット校指定 (9 小 6 中)
・ パイロット校は教育課程特例校として認定
・ 英会話科、郷土「なら」科、情報科の実施
・ 4 - 3 - 2 の区切り
・ 施設一体型、1 小 1 中連携型、2 小 1 中連携型等多様なタイプで研究

- 【成果】 9年生において、ほぼ全員が英検3級、準2級取得
韓国の中学生と交流を図ることができた。
保護者からの肯定的な回答
中学校で「わかる授業」についてのアンケートの肯定評価が上昇
- 【課題】 教員の異動に伴う意識の低下
学力向上効果検証の必要性
小中一貫教育カリキュラムの作成
家庭学習の習慣化

(8) 鹿児島県薩摩川内市の取組（施設分離型）

- 【取組】 ・全小中学校が教育課程特例校に認定
・全学年に「コミュニケーション科」を新設
・小1から英語活動を実施
・小5～中1を中心に、教員の授業交流を実施
・4 - 3 - 2の区切り
- 【成果】 中学校不登校出現率の低下(2.3% 1.8%)
県基礎・基本定着度調査平均通貨立の上昇
保護者の肯定的評価
子どもの自尊感情の向上
- 【課題】 学区の実情に応じた取組の工夫
移動の時間の確保
異動に伴う理解